

# アバール語の相互代名詞 *tsotsa*-\*

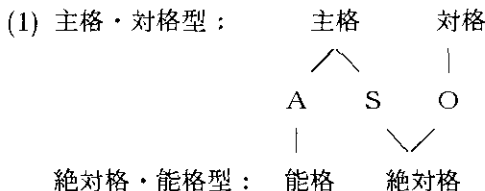
山田久就 (筑波大学)

キーワード：アバール語、形態的能格性、相互代名詞、  
先行詞、統語的能格性

## 1 始めに

本稿の目的は、アバール語の相互代名詞 *tsotsa*-とその先行詞の分布を明らかにすることである。相互代名詞 *tsotsa*-とその先行詞がどのような位置に現われることができるのかについて記述的一般化を行う。

アバール語は、形態的能格性を示す言語である。アバール語の形態的能格性は、第一に格配列、第二に動詞とその従属部 (dependents) の一つとの一致 (agreement) に現われる。アバール語の格配列は絶対格・能格型である。Dixon(1979, 1994) の用語 S,A,O を用いると、アバール語では、S と O が絶対格で現われ、A が能格で現われる。日本語のような主格・対格型の格配列を持つ言語では、S と A が主格で現われ、O が対格で現われる。S,A,O と格配列の関係を簡単に図式化すると次のようになる。



\*アバール語は、北東コーカサス諸語 (ダゲスタン諸語) の一言語で、主にロシア連邦ダゲスタン共和国で話されている。アバール語の文語で用いられている文字はキリル文字であるが、本稿ではキリル文字をラテン文字に転写してアバール語を表記する。本稿のデータは1996年8月から1998年2月までの間にロシア連邦ダゲスタン共和国で行った調査による。S.D.S. 氏、X.M.D. 氏、I.I.M. 氏を中心に多くの方にインフォーマントになっていただいた。感謝の意を申し上げたい。本発表で用いる省略記号は次の通りである。ABL: 奪格、ABS: 絶対格、Adj: 形容詞、AdjPt: 形容詞的分詞、ALL: 向格、DAT: 与格、ERG: 能格、GEN: 属格、LOC: 位格、PL: 複数、PRS: 現在、PST: 過去。アバール語の位格、向格、奪格は5系列の構成要素からなる。系列 I、II、III、IV、V はそれぞれ「~の上」、「~の辺り、~の所」、「~ (連続的な媒体など) の中」、「~の下」、「~ (入れ物など) の中」を意味する。

アパール語の格配列を例示する。(2)は自動詞文で、SのMusaが絶対格で現われている。(3)は他動詞文で、AのRasulが能格で、OのMusaが絶対格で現われている。

- (2) Musa haniwe wach'ana.  
Musa・ABS ここに 来る・PST  
「Musaがここに来た。」

- (3) Rasulitsta Musa haniwe wachana.  
Rasul・ERG Musa・ABS ここに 連れて来る・PST  
「RasulがMusaをここに連れて来た。」

アパール語では、動詞とその従属部の一つとの間に一致が起こる。自動詞はS(絶対格名詞句)と一致し、他動詞はO(絶対格名詞句)と一致する。A(能格名詞句)あるいはその他の名詞句とは一致しない。一致のクラスは、単数男性、単数女性、単数非人間、複数の四つであり、動詞の接頭辞として現われる<sup>1</sup>。上記の(2)では、自動詞w-ach'anaがS(絶対格名詞句)の男性名詞Musaと一致している<sup>2</sup>。上記の(3)では、他動詞w-achanaがO(絶対格名詞句)の男性名詞Musaと一致している。(2),(3)の男性名詞Musaを女性名詞Pat'imatに代えると、それぞれ(4),(5)のようになり、動詞の形はj-ach'anaとj-achanaになる。

- (4) Pat'imat hanije jach'ana.  
Patimat・ABS ここに 来る・PST  
「Patimatがここに来た。」

- (5) Rasulitsta Pat'imat hanije jachana.  
Rasul・ERG Patimat・ABS ここに 連れて来る・PST  
「RasulがPatimatをここに連れて来た。」

アパール語の相互代名詞には、(6a)(7a)に示すtsotsa-と(6b)(7b)に示すtsoja- tsoja-とがある<sup>3</sup>。

- (6) a. Hel tsotsazukx ralahana.  
彼ら・ABS お互い・LOC(II) 見る・PST  
「彼らがお互いを見た。」

<sup>1</sup>母音で始まる動詞だけが一致を標示する接頭辞を持っている。したがって、子音で始まる動詞は一致を標示しない。

<sup>2</sup>v-が男性を表わしている。女性はj-、非人間はb-、複数はr-である。

<sup>3</sup>本稿では、相互代名詞を太字体で、その先行詞をイタリック体で書く。

- b. *Hel tsojal tsojazukx ralahana.*  
 彼ら・ABS お互い・ABS-LOC(II) 見る・PST  
 「彼らがお互いを見た。」

- (7) a. *Hez sualal tsotsaze tʃ'una.*  
 彼ら・ERG 質問・PL,ABS お互い・DAT 与える・PST  
 「彼らがお互いに質問を与えた。」

- b. *Hez sualal tsojaz tsojaze tʃ'una.*  
 彼ら・ERG 質問・PL,ABS お互い・ERG-DAT 与える・PST  
 「彼らがお互いに質問を与えた。」

(6a) と (6b)、(7a) と (7b) は全く同じ意味である。(6b)、(7b) で用いられている相互代名詞 *tsoja-* *tsoja-* の最初の *tsoja-* は先行詞の格 ((6b) では絶対格、(7b) では能格) に一致し、二番目の *tsoja-* が相互代名詞 *tsoja-* *tsoja-* が現われている位置が担っている格 ((6b) では所格 (II)、(7b) では与格) を示す。相互代名詞 *tsotsa-* と相互代名詞 *tsoja-* *tsoja-* の使用頻度を比べると、相互代名詞 *tsotsa-* の使用が圧倒的に多く、相互代名詞 *tsoja-* *tsoja-* はほとんど用いられない。アパール語の研究において、私の知る限りでは、相互代名詞 *tsotsa-* も相互代名詞 *tsoja-* *tsoja-* も全く研究されていない<sup>4</sup>。しかし、本稿では、相互代名詞 *tsotsa-* だけを扱い、相互代名詞 *tsoja-* *tsoja-* については別の機会に記述を行いたい。

本稿の構成は次のようになっている。第2節で、相互代名詞 *tsotsa-* とその先行詞が同一の節にある場合を扱う。第3節で、相互代名詞 *tsotsa-* が従属節にあり先行詞が主節にある場合を扱う。

## 2 相互代名詞と先行詞が同一の節にある場合

この節では、相互代名詞 *tsotsa-* とその先行詞が同一の節にある場合を問題にする。2.1 で、相互代名詞 *tsotsa-* とその先行詞が同一の述語の従属部である場合について述べる。2.2 では、相互代名詞 *tsotsa-* が名詞句の中にあり、その名詞句が相互代名詞 *tsotsa-* の先行詞と同一の述語の従属部である場合について述べる。

<sup>4</sup>アパール語の文法の研究はあまり行われていない。文法書として Uslar (1889) があり、統語論に Bokarev (1949) が、形態論に Madieva (1980) があるが、相互代名詞についてはどこにも言及されていない。また、その他の本、論文にも私の知る限りではどこにも言及されていない。アパール語の研究の歴史については、Ataev (1997) を見ていただきたい。

## 2.1 相互代名詞と先行詞が同一の述語に従属している場合

この2.1では、相互代名詞とその先行詞が同一の述語に従属している場合に限って、相互代名詞とその先行詞が現われることができる位置について明らかにする。

最初に、自動詞を述語とする文でS(絶対格名詞句)とその他の位置を相互代名詞で結ぶ場合について述べる。(8)-(11)では、相互代名詞がS(絶対格名詞句)を先行詞にしている。相互代名詞自身は、(8)では所格(I)名詞句の位置にあり、(9)では所格(II)名詞句の位置にあり、(10)では向格(I)名詞句の位置にあり、(11)では、奪格(IV)名詞句の位置にある。

(8) *Hel*            **tsotsazda**        *kx'ochana.*  
 彼ら・ABS お互い・LOC(I) キスする・PST  
 「彼らがお互いにキスした。」

(9) *Hel*            **tsotsazukx**        *ralahana.*  
 彼ら・ABS お互い・LOC(II) 見る・PST  
 「彼らがお互いを見た。」

(10) *Hel*            **tsotsazde**        *tɬ'wahdana.*  
 彼ら・ABS お互い・ALL(I) 撃つ・PST  
 「彼らがお互いを撃った。」

(11) *Hel*            **tsotsazutɬ'a**        *nechana.*  
 彼ら・ABS お互い・ABL(IV) 恥ずかしがる・PST  
 「彼らがお互いに対して恥ずかしがった。」

このように、S(絶対格名詞句)の位置にある名詞句は、いろいろな位置にある相互代名詞の先行詞になることができる。それに対して、S(絶対格名詞句)の位置に相互代名詞が現われることはできない。(12)-(15)は、(8)-(11)の相互代名詞と先行詞の位置を逆にした文であるが、どの文も容認されない<sup>5</sup>。

(12) \**Hezda*            **TSOTSAL**        *kx'ochana.*  
 彼ら・LOC(I) お互い・ABS キスする・PST  
 「彼らがお互いにキスした。」

<sup>5</sup> 相互代名詞 *tsotsa-*の主格形は、形態的に *tsotsal* と予測される。しかし、実際には用いられないので、例文では大文字で *TSOTAL* と記す。

- (13) \**Hezux*            **TSOTSAL** *ralahana.*  
 彼ら・LOC(II) お互い・ABS 見る・PST  
 「彼らがお互いを見た。」
- (14) \**Hezde*            **TSOTSAL** *tt'wahdana.*  
 彼ら・ALL(I) お互い・ABS 撃つ・PST  
 「彼らがお互いを撃った。」
- (15) \**Hezutɬ'a*        **TSOTSAL** *nechana.*  
 彼ら・ABL(IV) お互い・ABS 恥ずかしがる・PST  
 「彼らがお互いに対して恥ずかしがった。」

統語論の一つのトピックに斜格経験者述語 (oblique experiencer predicates) があるが、アバール語の自動詞の中にも斜格経験者述語が多くある。-otɬ'ize (好く、欲する) などの述語では経験者 (experiencer) が与格で現われ、-içize (見る、見える)、raɬize (聞く、聞こえる)、ɬaze (知る)、-ich'ch'ize (解る)、rixine (嫌う)、ch'al'sine (飽きる) などの述語では経験者が所格 (I) で現われる。被経験者 (experienced) は常に S (絶対格名詞句) として現われる。(16) は経験者が与格で現われている例であり、(17) は経験者が所格 (I) で現われている例である。

- (16) ɬalie        Pat'imat        jott'ula.  
 Ali・DAT Patimat・ABS 好いている・PRT  
 「Ali が Patimat を好いている。」
- (17) ɬalida        Pat'imat        jiçana.  
 Ali・LOC(I) Patimat・ABS 見る／見える・PST  
 「Ali が Patimat を見た／Ali に Patimat が見えた。」

アバール語の斜格経験者述語の文で、経験者 (与格名詞句あるいは所格 (I) 名詞句) と S (絶対格名詞句) である被経験者を相互代名詞で結ぶ場合、(18)-(21) のように経験者 ((18),(19) では与格名詞句、(20),(21) では所格 (I) 名詞句) の位置に相互代名詞が現われ、S (絶対格名詞句) である被経験者の位置に先行詞が現われる。

- (18) *Hel*            **tsotsaze**        rotɬ'ula.  
 彼ら・ABS お互い・DAT 好いている・PRT  
 「彼らがお互いを好いている。」

(19) *Hel*            **tsotsaze**        *xirijal*            *ruگو.*  
 彼ら・ABS お互い・DAT 好いている (Adj) ある・PRT  
 「彼らがお互いを好いている。」

(20) *Hel*            **tsotsazda**        *riçana.*  
 彼ら・ABS お互い・LOC(I) 見る／見える・PST  
 「彼らがお互いを見た／彼らにお互いが見えた。」

(21) *Hel*            **tsotsazda**        *ıala.*  
 彼ら・ABS お互い・LOC(I) 知っている・PRS  
 「彼らがお互いを知っている。」

(22)-(25) は、(18)-(21) の相互代名詞と先行詞の位置を逆にした文であるが、どの文も容認されない。

(22) \**Hezie*        **TSOTSAL**        *rotı'ula.*  
 彼ら・DAT お互い・ABS 好いている・PRT  
 「彼らがお互いを好いている。」

(23) \**Hezie*        **TSOTSAL**        *xirijal*            *ruگو.*  
 彼ら・DAT お互い・ABS 好いている (ADJ) ある・PRT  
 「彼らがお互いを好いている。」

(24) \**Hezda*        **TSOTSAL**        *riçana.*  
 彼ら・LOC(I) お互い・ABS 見る／見える・PST  
 「彼らがお互いを見た／彼らにお互いが見えた。」

(25) \**Hezda*        **TSOTSAL**        *ıala.*  
 彼ら・LOC(I) お互い・ABS 知っている・PRS  
 「彼らがお互いを知っている。」

したがって、斜格経験者述語を含み、どの自動詞を述語とする文でも、S (絶対格名詞句) とその他の位置を相互代名詞で結ぶ場合、S (絶対格名詞句) の位置に先行詞が現われ、その他の位置に相互代名詞が現われる。

次は、O (絶対格名詞句) の位置と別の位置を相互代名詞で結ぶ場合である。最初に、O (絶対格名詞句) を A (能格名詞句) と結ぶ場合を見る。(26)-(28) では、相互代名詞が A (能格名詞句) の位置にあり、先行詞が O (絶対格名詞句) の位置にある。

(26) *Hel*            **tsotsatstsa**    *ɬukx'ana*.  
 彼ら・ABS お互い・ERG 傷つける・PST  
 「彼らがお互いを傷つけた。」

(27) *Hel*            **tsotsatstsa**    *kakana*.  
 彼ら・ABS お互い・ERG けなす・PST  
 「彼らがお互いをけなした。」

(28) *Hel*            **tsotsatstsa**    *ralahana*.  
 彼ら・ABS お互い・ERG 探す・PST  
 「彼らがお互いを探した。」

このように、相互代名詞が A (能格名詞句) の位置にあり、先行詞が O (絶対格名詞句) の位置にある文は容認される。それに対して、(26)-(28) の相互代名詞と先行詞の位置を逆にした (29)-(31) のように、相互代名詞が O (絶対格名詞句) の位置にあり、先行詞が A (能格名詞句) の位置にある文は容認されない。

(29) \**Hez*            **TSOTSAL**    *ɬukx'ana*.  
 彼ら・ERG お互い・ABS 傷つける・PST  
 「彼らがお互いを傷つけた。」

(30) \**Hez*            **TSOTSAL**    *kakana*.  
 彼ら・ERG お互い・ABS けなす・PST  
 「彼らがお互いをけなした。」

(31) \**Hez*            **TSOTSAL**    *ralahana*.  
 彼ら・ERG お互い・ABS 探す・PST  
 「彼らがお互いを探した。」

(32)-(35) は、O (絶対格名詞句) と A (能格名詞句) 以外の位置を相互代名詞で結んだ文である。相互代名詞が、(32) では所格 (I) 名詞句の位置にあり、(33) では向格 (I) 名詞句の位置にあり、(34) では向格 (I) 名詞句の位置にあり、(35) では奪格 (I) 名詞句の位置にある。先行詞は、(32)-(35) の全てで O (絶対格名詞句) の位置にある。

(32) *Hess*    *hel*            **tsotsazda**    *ruçana*.  
 彼・ERG それら・ABS お互い・LOC(I) 結ぶ・PST  
 「彼がそれらをお互いに結んだ。」

(33) ʕalitstsa hel            **tsotsazde**            hussana.  
 Ali · ERG 彼ら · ABS お互い · ALL(I) けしかける · PST  
 「Ali が彼らをお互いに対してけしかけた。」

(34) ʕalitstsa hel            **tsotsazde**            zhurana.  
 Ali · ERG それら · ABS お互い · ALL(I) 合わせる · PST  
 「Ali がそれらをお互いに合わせる。」

(35) Hess hel            **tsotsazdassa**            rat'a  
 彼 · ERG それら · ABS お互い · ABL(I) 離れた (Adj)  
 haruna.  
 する · PST  
 「彼がそれらをお互いから離れた。」

(32)-(35) のように、先行詞が O (絶対格名詞句) の位置にあり、相互代名詞がその他の位置にある文は容認される。それに対して、(32)-(35) の相互代名詞と先行詞の位置を逆にした (36)-(39) のように、相互代名詞が O (絶対格名詞句) の位置にあり、先行詞がその他の位置にある文は容認されない。

(36) \*Hess hezda            **TSOTSAL** ruçana.  
 彼 · ERG それら · LOC(I) お互い · ABS 結ぶ · PST  
 「彼がそれらをお互いに結んだ。」

(37) \*ʕalitstsa hezde            **TSOTSAL** hussana.  
 Ali · ERG 彼ら · ALL(I) お互い · ABS けしかける · PST  
 「Ali が彼らをお互いに対してけしかけた。」

(38) \*ʕalitstsa hezde            **TSOTSAL** zhurana.  
 彼 · ERG それら · ALL(I) お互い · ABS 合わせる · PST  
 「彼がそれらをお互いに合わせる。」

(39) \*Hess hezdassa            **TSOTSAL** rat'a  
 彼 · ERG それら · ABL(I) お互い · ABS 離れた (ADJ)  
 haruna.  
 する · PST  
 「彼がそれらをお互いから離れた。」



次は、A (能格名詞句) の位置と別の位置を相互代名詞で結ぶ場合である。A (能格名詞句) の位置と O (絶対格名詞句) の位置を結ぶ場合についてはすでに述べたので、それ以外の場合についてだけ扱う。(40)-(43) では、先行詞が A (能格名詞句) の位置にあり、相互代名詞がその他の位置、(40) では与格名詞句の位置に、(41) では所格 (I) 名詞句の位置に、(42) では向格 (I) 名詞句の位置に、(43) では奪格 (II) 名詞句の位置にある。このような文は容認される。

(40) *Hez*            *sualal*            *tsotsaze*            *tɬ'una*.  
 彼ら・ERG 質問・PL,ABS お互い・DAT 与える・PST  
 「彼らがお互いに質問を与えた。」

(41) *Hez*            *tsotsazda*            *but'rul*            *ɬuna*.  
 彼ら・ERG お互い・LOC(I) 頭・PL,ABS 置く・PST  
 「彼らがお互いに頭を置いた。」

(42) *Hez*            *tsotsazde*            *kaytal*            *kxwana*.  
 彼ら・ERG お互い・ALL(I) 手紙・PL,ABS 書く・PST  
 「彼らがお互いに手紙を書いた。」

(43) *Hez*            *heb*            *tsotsazukxa*            *bakxana*.  
 彼ら・ERG それ・ABS お互い・ABL(II) 奪い取る・PST  
 「彼らがお互いから奪い取った。」

(44)-(47) は、(40)-(43) の文の相互代名詞と先行詞の位置を逆にした文である。このように相互代名詞が A (能格名詞句) の位置にあり、先行詞がその他の位置にある文は容認されない。

(44) \**Hezie*            *tsotsatstsa*            *sualal*            *tɬ'una*.  
 彼ら・DAT お互い・ERG 質問・PL,ABS 与える・PST  
 「彼らがお互いに質問を与えた。」

(45) \**Hezda*            *tsotsatstsa*            *but'rul*            *ɬuna*.  
 彼ら・LOC(I) お互い・ERG 頭・PL,ABS 置く・PST  
 「彼らがお互いに頭を置いた。」

(46) \**Hezde*            *tsotsatstsa*            *kaytal*            *kxwana*.  
 彼ら・ALL(I) お互い・ERG 手紙・PL,ABS 書く・PST  
 「彼らがお互いに手紙を書いた。」

- (47) \**Hezukxa* heb **tsotsatstsa** *bakxana*.  
 彼ら・ABL(II) それ・ABS お互い・ERG 奪い取る・PST  
 「彼らがそれをお互いから奪い取った。」

最後に残ったのは、相互代名詞と先行詞の両方が S (絶対格名詞句)、O (絶対格名詞句)、A (能格名詞句) 以外の位置にある場合である。(48),(49) は、その例である。(48) では、先行詞が与格名詞句の位置にあり、相互代名詞が前置詞 *haxk'aʔuʔ* (～について) の前置詞句の位置にある。(49) では、先行詞が位格 (I) 名詞句の位置にあり、相互代名詞が前置詞 *haxk'aʔuʔ* (～について) の前置詞句の位置にある。

- (48) *Ditstsa* *hezije* **tsotsazul** *haxk'aʔuʔ* *sualal*  
 私・ERG 彼ら・DAT お互い・GEN について 質問・PL,ABS  
*tʔ'una*.  
 与える・PST  
 「私が彼らにお互いについて質問を与えた。」

- (49) *ʔalitstsa* *hezda* **tsotsazul** *haxk'aʔuʔ* *hixk'ana*.  
 Ali・ERG 彼ら・LOC(I) お互い・GEN について 尋ねる・PST  
 「Ali が彼らにお互いについて尋ねた。」

(48),(49) は、容認される文である。(50),(51) は、それぞれ、(48),(49) の相互代名詞と先行詞の位置を逆にした文である。(50) では、先行詞が前置詞 *haxk'aʔuʔ* (～について) の前置詞句の位置にあり、相互代名詞が与格名詞句の位置にある。(51) では、先行詞が前置詞 *haxk'aʔuʔ* (～について) の前置詞句の位置にあり、相互代名詞が位格 (I) 名詞句の位置にある。

- (50) *Ditstsa* *hezul* *haxk'aʔuʔ* **tsotsaze** *sualal*  
 私・ERG 彼ら・GEN について お互い・DAT 質問・PL,ABS  
*tʔ'una*.  
 与える・PST  
 「私が彼らについてお互いに質問を与えた。」

- (51) *ʔalitstsa* *hezul* *haxk'aʔuʔ* **tsotsazda** *hixk'ana*.  
 Ali・ERG 彼ら・GEN について お互い・LOC(I) 尋ねる・PST  
 「Ali が彼らについてお互いに尋ねた。」

(50),(51)は、(48),(49)と並んで容認される文である。(48),(49)と(50),(51)を比べると、明らかに(50),(51)より(48),(49)が好まれる。

相互代名詞と先行詞の両方がS,A,O以外の位置にある文は、一般的にぎこちなく、ほとんど用いられない。また、インフォーマントによる文の容認性に対する判断ははっきりしない。

この節をまとめると、次のようになる。S(絶対格名詞句)の位置とその他の位置を相互代名詞で結び付ける場合、S(絶対格名詞句)の位置に先行詞が現われ、その他の位置に相互代名詞が現われる。O(絶対格名詞句)の位置とA(能格名詞句)及びその他の位置を相互代名詞で結び付ける場合、O(絶対格名詞句)の位置に先行詞が現われ、A(能格名詞句)及びその他の位置に相互代名詞が現われる。A(能格名詞句)の位置とO(絶対格名詞句)を除くその他の位置を相互代名詞で結び付ける場合、A(能格名詞句)の位置に先行詞が現われ、その他の位置に相互代名詞が現われる。S(絶対格名詞句)、O(絶対格名詞句)、A(能格名詞句)以外の二つの位置を結び付ける場合は、絶対的なことは言えず、先行詞と相互代名詞が現われることができる位置を交代できる例を示した。

ここで、特記すべきことは、アバール語の相互代名詞とその先行詞の分布は、Dixon(1979, 1994), Manning(1996)が議論している意味で、統語的能格性(syntactic ergativity)を示すということである。統語的対格性を示す統語現象は、二つの下位分類に分けられる。第一類は、SとOだけが持っていて、A(及びそれ以外の名詞句)が持っていない統語現象である。第二類は、SとOと共にA(及びその他の名詞句)も持っているが、SとOがA(及びその他の名詞句)に対して優位性を持っている統語現象である。アバール語の相互代名詞とその先行詞の分布は、第二類の統語的対格性を示す統語現象である。

## 2.2 相互代名詞が名詞句の中にある場合

相互代名詞が名詞句の中にあり、相互代名詞を含んでいるその名詞句と相互代名詞の先行詞が同一の述語に従属している場合がある。

(52),(53)では、先行詞がS(絶対格名詞句)の位置にある。相互代名詞は、(52)では向格(V)名詞句の中にあり、(53)では奪格(I)名詞句の中にある。

(52) *Hel*            **tsotsazul**    badire            ralahana.  
 彼ら・ABS お互い・GEN 目・ALL(V) 見た・PST  
 「彼らはお互いの目をみた。」

(53) *Hel*            **tsotsazul**    hunaraldassa roxxana.  
 彼ら・ABS お互い・GEN 偉業・ABL(I) 喜ぶ・PST  
 「彼らはお互いの偉業に喜んだ。」

(54),(55) では、先行詞が A (能格名詞句) の位置にある。相互代名詞は、(54) では O (絶対格名詞句) の中にあり、(55) では奪格 (I) 名詞句の中にある。

(54) *Hez*            **tsotsazul**    mafu            bats'ts'ana.  
 彼ら・ERG お互い・GEN 涙・ABS きれいにする・PST  
 「彼らはお互いの涙をきれいにした。」

(55) *Hez*            **tsotsazul**    halbiçijaldassa pajda    bosana.  
 彼ら・ERG お互い・GEN 経験・ABL(I) 益・ABS 得る・PST  
 「彼らはお互いの経験から益を得た。」

(56),(57) では、先行詞が O (絶対格名詞句) の位置にある。相互代名詞は、(56),(57) の両方で A (能格名詞句) の中にある。

(56) *Hel*            **tsotsazul**    kalamaŋ        tamashaŋizaruna.  
 彼ら・ABS お互い・GEN 話し・ERG 驚かせる・PST  
 「彼らをお互いの話しが驚かせた。」

(57) *Hel*            **tsotsazul**    kalamaŋ        roxxizaruna.  
 彼ら・ABS お互い・GEN 話し・ERG 喜ばせる・PST  
 「彼らをお互いの話しが喜ばせた。」

### 3 相互代名詞と先行詞が異なる節にある場合

多くの言語で相互代名詞とその先行詞が異なる節に現われることができない。アバール語では、相互代名詞 *tsotsa-* とその先行詞が異なる節に現われることができる。先行詞がある節の従属節に相互代名詞がある文は容認される。(58)-(60) はその例である。

- (58) *Hez*            *tsotsazukxe*      *rach'aral*            *kaɣtal*  
 彼ら・ERG  お互い・ALL(II)  来る・AdjPt,PST  手紙・PL,ABS  
*ts'alana*.  
 読む・PST

「彼らはお互いの所に来た手紙を読んだ。」

- (59) *Hez*            *tsotsatsta*      *kxwaral*            *t'açal*  
 彼ら・ERG  お互い・ERG  書く・AdjPt,PST  本・PL,ABS  
*retstsana*.  
 ほめる・PST

「彼らはお互いが書いた本をほめた。」

- (60) *Hez*            *tsotsazul*        *muyzada*            *rugel*  
 彼ら・ERG  お互い・GEN  背中・LOC(I)  ある・AdjPt,PRS  
*parashutazul*                      *xal*                      *habuna*.  
 パラシュート・PL,GEN  注意・ABS  する・PST

「彼らはお互いの背中にあるパラシュートに注意を払った。」

#### 4 終りに

本稿では、アバル語の相互代名詞 *tsotsa-*とその先行詞がどのような位置に現われることができるのかについて明らかにした。本稿では、記述的な側面だけを対象とし、理論的な側面には全く触れなかった。私には、本稿で明らかにした事実は、統語理論の発展に対して非常に大きな意味を持っていると思われる。アバル語の相互代名詞 *tsotsa-*とその先行詞の分布の理論的分析は次の機会に行うことにする。

#### 参考文献

- Ataev, B. M. (1997) *Istorija Izuchenija Avarskogo Jazyka*. Maxachkala: Dagestan - XXI vek.
- Bokarev, A. A. (1949) *Sintaksis Avarskogo Jazyka*. Moskva, Leningrad: Izdatel'stvo AN SSSR.
- Dixon, R. M. W. (1979) "Ergativity," *Language*, 55. 59-138.

- Dixon, R. M. W. (1994) *Ergativity*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Madieva, G. I. (1980) *Morfologija Avarskogo Literaturnogo Jazyka*. Maxachkala: Daguchpedgiz.
- Manning, Christopher D. (1996) *Ergativity: Argument Structure and Grammatical Relations*. Stanford, California: CSLI Publications.
- Uslar, P. K. (1889) *Etnografija Kavkaza. Jazykoznanie. III. Avarskij Jazyk*. Tiflis.

## Avar reciprocal pronouns *tsotsa-*

Hisanari YAMADA

In this paper I will describe the condition on the distribution of Avar reciprocal pronouns and their antecedents.

First, I will discuss cases where reciprocal pronouns and their antecedents are in the same clauses. NPs in the S position can antecede reciprocal pronouns in other positions. Reciprocal pronouns, on the other hand, are ineligible to appear in the S position. NPs in the O positions are able to be antecedents of reciprocal pronouns in the A position and the other positions. NPs in the A position aren't eligible antecedents of NPs in the O position. They can, however, qualify as antecedents of NPs in the other positions.

Avar reciprocal pronouns are able to be located inside NPs in the case that the NPs and antecedents of the reciprocal pronouns depend on the same predicate.

Second, I will be concerned with the sentences in which reciprocal pronouns

*and their antecedents stand in different clauses. In Avar, reciprocal pronouns are eligible to select as antecedents NPs in the upper clauses.*

hyamada@sakura.cc.tsukuba.ac.jp